

14時30分解禁

平成24年1月 全国百貨店売上高概況

平成24年2月20日

I. 概況

1. 売上高総額	5,526億円余
2. 前年同月比	-1.1% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	86社 254店 (平成23年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,415,352㎡ (前年同月比:-0.4%)
5. 総従業員数	87,397人 (前年同月比:-5.6%)
6. 3か月移動平均値	6-8月 -0.4%、7-9月 -1.2%、8-10月 -1.5%、 9-11月 -1.6%、10-12月 -0.4%、11-1月 -0.6%

[参考] 平成23年1月の売上高増減率は-1.1% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

2か月ぶりの前年同月比マイナスであるが、減少幅は1%台とほぼ前年並みに推移した。

1月は、昨年暮から続く季節需要の盛り上がりを受けて、正月恒例の福袋や初売り、クリアランスセールが好調に推移し、月前半の商戦は前年を上回る勢いでスタートしたが、後半からは日本海側を中心とした記録的な降雪のほか、太平洋側の各地も例年にない寒気に見舞われるなど天候不順が影響して、入店客数・売上高とも若干の減速傾向が見られた。

高級時計等の高額商材(美宝・貴:+0.5%)が引き続き好調を維持し、地方物産展等の食品企画(惣菜:+2.4%)が活況を呈するなど、一部に売上を牽引する要素は見られたものの、中旬以降の伸び率鈍化と非店頭売上(外商・店外催事等)の苦戦もあって、前年実績には若干届かなかった。

具体的な動向としては、復興需要で東北地区が好調(仙台:+7.8%、東北:+4.3%)を維持したこと、店舗数調整前の数値で新店・増床効果のある大阪(+5.0%)と福岡(+18.1%)が引き続き拡大基調にあること、訪日外国人は中国を中心に回復傾向を強め、昨年2月以来11か月にプラス転換(売上:+12.1%、購買客数:+8.3%)したことなどが報告されている。

【要因】

- (1) 天候 : 気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
 - ◇ 優勢なシベリア高気圧の影響で冬型の気圧配置が強く、日本付近に強い寒気が流れ込んだ影響で、月平均気温は北日本から西日本にかけて低くなった。また、日本海側では中旬から月末にかけて所々で降雪量が多くなった。
- (2) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 11日 (" ±0日)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 36店、②変化なし: 31店、③減少した: 61店、④不明: 45店
- (5) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール、成人の日)の売上(同上)
 - ①増加した: 42店、②変化なし: 44店、③減少した: 31店、④不明: 56店
- (6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 20店、②変化なし: 76店、③減少する: 27店、④不明: 50店

全国百貨店 売上高速報 2012年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	552,672,200	100.0	-1.1 (-0.3)
10都市	357,090,524	64.6	-1.4 (0.5)
札幌	13,616,072	2.5	0.6
仙台	7,961,194	1.4	7.8
東京	132,090,563	23.9	-3.1 (-2.9)
横浜	31,256,663	5.7	0.2 (-0.4)
名古屋	32,744,049	5.9	-1.7
京都	21,891,536	4.0	-1.1
大阪	71,240,986	12.9	0.5 (5.0)
神戸	15,527,904	2.8	-1.0
広島	13,191,960	2.4	-0.4
福岡	17,569,597	3.2	-5.7 (18.1)
10都市以外の地区	195,581,676	35.4	-0.4 (-1.6)
北海道	3,108,847	0.6	-2.3
東北	9,450,067	1.7	4.3 (-10.2)
関東	95,793,283	17.3	0.9 (0.5)
中部	15,047,484	2.7	-2.4
近畿	17,959,806	3.2	-2.7
中国	13,466,399	2.4	-4.3
四国	10,911,569	2.0	-3.4
九州	29,844,221	5.4	-0.6 (-2.0)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	552,672,200	100.0	-1.1 (-0.3)
紳士服・洋品	49,115,706	8.9	1.8 (3.3)
婦人服・洋品	154,366,257	27.9	-0.8 (-0.1)
子供服・洋品	16,260,467	2.9	0.2 (1.2)
その他衣料品	14,757,002	2.7	-3.8 (-3.1)
衣 料 品	234,499,432	42.4	-0.4 (0.5)
身のまわり品	72,015,136	13.0	-1.9 (-0.5)
化粧品	24,891,788	4.5	-0.4 (0.6)
美術・宝飾・貴金属	20,070,570	3.6	0.5 (0.9)
その他雑貨	21,966,164	4.0	-4.3 (-4.1)
雑 貨	66,928,522	12.1	-1.5 (-0.9)
家 具	6,473,914	1.2	-1.1 (-0.7)
家 電	1,351,982	0.2	-14.3 (-14.4)
その他家庭用品	17,908,119	3.2	-1.8 (-1.9)
家 庭 用 品	25,734,015	4.7	-2.4 (-2.4)
生 鮮 食 品	26,337,644	4.8	-1.6 (-1.4)
菓 子	32,848,648	5.9	-0.9 (0.7)
惣 菜	28,221,110	5.1	2.4 (3.3)
その他食料品	36,687,771	6.6	-3.4 (-3.4)
食 料 品	124,095,173	22.5	-1.1 (-0.4)
食 堂 喫 茶	14,946,225	2.7	-0.1 (2.1)
サ ー ビ ス	5,053,288	0.9	-2.3 (-2.0)
そ の 他	9,400,409	1.7	-5.8 (-6.3)
商 品 券	11,414,865	2.1	-40.0 (-40.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -1.4% (店舗数調整後／2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.4% (〃 ／2か月ぶりマイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-1.4	-0.9	2か月ぶりマイナス
札幌	0.6	0.0	2か月ぶりプラス
仙台	7.8	0.1	9か月連続プラス
東京	-3.1	-0.8	2か月ぶりマイナス
横浜	0.2	0.0	2か月連続プラス
名古屋	-1.7	-0.1	3か月連続マイナス
京都	-1.1	0.0	2か月ぶりマイナス
大阪	0.5	0.1	4か月連続プラス
神戸	-1.0	0.0	2か月ぶりマイナス
広島	-0.4	0.0	2か月ぶりマイナス
福岡	-5.7	-0.2	42か月連続マイナス
10都市以外の地区	-0.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
北海道	-2.3	0.0	15か月連続マイナス*
東北	4.3	0.1	4か月連続プラス*
関東	0.9	0.2	2か月連続プラス
中部	-2.4	-0.1	11か月連続マイナス
近畿	-2.7	-0.1	2か月ぶりマイナス
中国	-4.3	-0.1	7か月連続マイナス*
四国	-3.4	-0.1	3か月連続マイナス
九州	-0.6	0.0	6か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、2か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、紳士服・洋品、子供服・洋品が2か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月連続、惣菜が9か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.1	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	1.8	0.2	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.8	-0.2	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	0.2	0.0	2か月連続プラス
その他衣料品	-3.8	-0.1	47か月連続マイナス
衣料品	-0.4	-0.2	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
化粧品	-0.4	0.0	2か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	0.5	0.0	3か月連続プラス*
その他雑貨	-4.3	-0.2	50か月連続マイナス*
雑貨	-1.5	-0.2	3か月連続マイナス
家具	-1.1	0.0	6か月連続マイナス
家電	-14.3	0.0	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-1.8	-0.1	6か月連続マイナス
家庭用品	-2.4	-0.1	6か月連続マイナス
生鮮食品	-1.6	-0.1	7か月連続マイナス*
菓子	-0.9	-0.1	3か月ぶりマイナス*
惣菜	2.4	0.1	9か月連続プラス*
その他食料品	-3.4	-0.2	3か月連続マイナス*
食料品	-1.1	-0.2	7か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.1	0.0	2か月ぶりマイナス
サービス	-2.3	0.0	14か月連続マイナス
その他	-5.8	-0.1	7か月連続マイナス
商品券	-40.0	-1.4	11か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成24年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成24年2月20日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,320億円余
2. 前年同月比	-3.1% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-1.1%(91.5%) : 非店頭-20.9%(8.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成23年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	915,720㎡ (前年同月比:-1.5%)
6. 総従業員数	18,846人 (前年同月比:-8.0%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 -1.2%、7-9月 -2.5%、8-10月 -2.8%、 9-11月 -2.8%、10-12月 -1.4%、11-1月 -1.7%

[参考] 平成23年1月の売上高増減率は+1.4% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 都内各店の入店客数は、第三週週末の降雪が大きく影響し、ほぼ全店で前年同月比2%~3%前後の減少であった。
- (2) 強い寒気の影響で、特に防寒アイテムは好調に推移した。具体的にはコート、セーター、マフラー、帽子、ブーツ、手袋等がよく動いた。
- (3) 内食志向の高まりを背景に、惣菜(+3.3%)や生鮮食品(+2.6%)が好調であった。これには地方物産展などの食品催事が積極展開されたことも寄与している。
- (4) 外商が苦戦したことや、ホテル等で開催される店外催事が雪の影響で不調だったことから、非店頭売上が下げ幅を広げる結果となった。
- (5) バレンタイン商戦の前半は、絆消費や自家需要の高まりを受けて、各社趣向を凝らした商品企画・売場強化を図った結果、前年を上回るペースで推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 2店、②変化なし: 3店、③減少した: 14店、④不明: 2店
- (3) 1月歳時記 (初売り、冬的全館セール、成人の日) の売上 (同上)
①増加した: 5店、②変化なし: 3店、③減少した: 6店、④不明: 7店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 3店、②変化なし: 10店、③減少する: 6店、④不明: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2012年01月

※店舗数調整後（ ）が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	132,090,563	100.0	-3.1 (-2.9)
紳士服・洋品	13,450,730	10.2	5.0
婦人服・洋品	34,194,490	25.9	-2.5
子供服・洋品	2,710,794	2.1	3.7
その他衣料品	2,703,585	2.0	-13.2
衣 料 品	53,059,599	40.2	-1.0
身のまわり品	17,479,058	13.2	-6.2
化粧品	5,986,388	4.5	-1.7
美術・宝飾・貴金属	5,368,339	4.1	-3.5
その他雑貨	6,684,619	5.1	-4.0
雑 貨	18,039,346	13.7	-3.1
家 具	1,878,649	1.4	-2.3
家 電	725,800	0.5	-11.3
その他家庭用品	4,751,203	3.6	-3.4 (-3.4)
家 庭 用 品	7,355,652	5.6	-4.0 (-4.0)
生 鮮 食 品	4,548,371	3.4	2.6 (5.6)
菓 子	7,577,722	5.7	-1.4 (-0.4)
惣 菜	6,566,292	5.0	3.3 (4.7)
その他食料品	9,294,432	7.0	-10.0 (-9.5)
食 料 品	27,986,817	21.2	-2.9 (-1.7)
食 堂 喫 茶	3,169,609	2.4	-0.4
サ ー ビ ス	1,990,816	1.5	-5.1 (-5.1)
そ の 他	3,009,666	2.3	-19.9 (-19.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

※

商 品 券	2,783,246 千円	-71.0
従 業 員 数	18,846 人	-8.0
店 舗 面 積	915,720 m ²	-1.5

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、8か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、紳士服・洋品が4か月連続、子供服・洋品が2か月連続、惣菜が6か月連続のプラス、生鮮食品が4か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.1	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	5.0	0.5	4か月連続プラス
婦人服・洋品	-2.5	-0.6	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	3.7	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	-13.2	-0.3	45か月連続マイナス
衣料品	-1.0	-0.4	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-6.2	-0.9	3か月連続マイナス
化粧品	-1.7	-0.1	2か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-3.5	-0.1	4か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.0	-0.2	5か月連続マイナス*
雑貨	-3.1	-0.4	4か月連続マイナス
家具	-2.3	0.0	10か月連続マイナス
家電	-11.3	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-3.4	-0.1	3か月ぶりマイナス
家庭用品	-4.0	-0.2	2か月連続マイナス
生鮮食品	2.6	0.1	4か月ぶりプラス*
菓子	-1.4	-0.1	2か月ぶりマイナス*
惣菜	3.3	0.2	6か月連続プラス*
その他食料品	-10.0	-0.8	12か月連続マイナス*
食料品	-2.9	-0.6	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-0.4	0.0	5か月連続マイナス
サービス	-5.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	-19.9	-0.6	7か月連続マイナス
商品券	-71.0	-5.0	9か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>